

研究・実践助成 選考基準および研究成果の評価等について

(一財)住総研の「研究・実践助成」は、住関連分野における研究の発展や研究者・実践者の育成および支援の観点から、将来の「住生活の向上」に役立つ内容で、学術的に質が高く、社会的要請の強い又は先見性や発展性が期待できる「研究」・「実践研究活動」に対して助成します。

1. 選考基準・方法

1) 選考基準

目的・課題の設定が明確で、研究として一定の水準に達することが期待され、かつ以下の一つ以上に該当すると判断されるものとします。

- 1)学術的に質の高い研究成果。
- 2)公益性を有し、社会的要請が高い課題への取組み。
- 3)先見性に富み、将来の発展性が期待できる課題への取組み。
- 4)社会的な実用性の向上に貢献する事が期待できる取組み。
- 5)将来の成長が期待できる若手研究者による取組み。

2) 選考方法

都市計画、建築計画、建築史、住居学、建築経済、環境、構工法などの、住に関わる多様な専門分野の研究者で構成された選考委員会(研究運営委員会)の中で主担当・副担当を選任し選考を行い、委員合議の上、採否を決定します。

2. 研究成果の評価等

1) 評価と公開

提出された研究論文は、選考委員会(研究運営委員会)で査読し、主担当・副担当が作成した研究評をもとに、委員が合議して、評価をとりまとめます。

なお、これらの研究評は、研究論文とともに『住総研 研究論文集・実践研究報告集』に掲載します。但し、評価段階で期待した成果に不十分であると判断した場合は、その年度の『住総研 研究論文集・実践研究報告集』には不掲載とし、次年度以降に再提出を求めることがあります。

2) 住総研「研究・実践選奨」及び「研究・実践選奨 奨励賞」

『住総研 研究論文集・実践研究報告集』に掲載する論文の中から、明確な問題意識、学問領域を超えた多彩なメンバーによる研究チーム構成、具体的で豊富な調査、新しい事実の発見、研究成果の発展的広がりなどに優れたものを住総研「研究・実践選奨」(毎年2~3編)及び「研究・実践選奨 奨励賞」として選出します。

また、発表の機会を設けると共に、当財団ホームページ上で、受賞者リストと成果発表動画等を公開します。

3) 住総研 研究・実践助成「選奨報奨枠」(新設) *住総研創立70年記念事業の一環として実施。(有期)

住総研「研究・実践選奨」を受賞した論文の主査を対象に、さらなる継続した研究・実践活動の一助となることを目的に次年度の助成優先権を付与します。

(概要) 対象者: 「研究・実践選奨」受賞者で、その主査に限定。対象者からの申請は任意とし、対象者が希望した場合は、「選奨報奨枠」の対象とします。

件数: 2~3件(「研究・実践選奨」受賞者)

助成額: 1件100万円(上限)

助成期間: 16ヶ月

なお、「選奨報奨枠」は、2019年1月末締切の「研究・実践助成」に応募された方で終了となります。

4) 助成拡大枠(新設) *住総研創立70年記念事業の一環として実施。(有期)

従来の研究・実践助成枠の採択数を3件程度拡大します。

選考委員会(研究運営委員会)(2018年度) (委員五十音順)

委員長 田村 誠邦(株式会社アークブレイン 代表取締役/明治大学理工学部 特任教授)

委員 秋元 孝之(芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授)

碓田 智子(大阪教育大学 教育学部教養学科 教授)

岡部 明子(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授)

蟹澤 宏剛(芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授)

後藤 治(工学院大学 建築学部建築デザイン学科 教授)